

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

「判断」すること

指導課長 堀口 俊雄

「これから、先生方は『判断』をしていかなければなりません。熟考できる時間がなく、その場ですぐに『判断』しなければならないこともあるでしょう。しかし、『判断』して終わりではありません。『判断』をした後に、そのように『判断』してよかったと思えるように頑張ればよいのです。誰だって、必ず正しい判断ができるはずがありません。『判断』した後が大切なのです。」

校長の辞令を戴いた直後のこの講話で、私の心は「やってみよう！頑張るぞ！」と一気に明るくなり、肩の力が抜け、自然体に戻れた。

「そうか。いつも正しい判断をしなければならないと考えると、その責任の重さにプレッシャーを感じるけれど、よりベターな判断を下し、その判断でよかったと認識できるように、その後も努力すればいいんだ。」

実は、教諭や教頭をさせていただいた時も、そして行政に携わらせていただいている時も、必ず「判断」せねばならないことはあった。学校は組織体であるので、時間が許せば、チームを組み、様々な意見を聞いた上で判断したり、緊急事態では先に判断して、対応策を複数で練ったりすることも可能なのである。

大切なのは、「判断」や対応等の根拠とそれらを職場の全員で共通理解することである。「判断」過程の“見える化”の積み重ねが、実績と検証、そして振り返りを可能にし、大きな学校力につながっていく。

みなさんも楽しく「判断」に挑戦してみませんか。

☆☆お願い☆☆

昨年10月に、社会科「確かめテスト」を作成し、各市町教育委員会を通して配布させていただきました。社会的見方・考え方を育成する一助になればありがたいです。

主体的・対話的で深い学び [阿久根市立田代小学校]

本校は、諸学力調査の結果の分析を通して児童の実態を的確に把握するとともに、「問題解決力を高める指導の在り方～算数科の指導を通して～」を研究主題として、校内研修に取り組んでいます。

板書の構造化をもとにした複式指導の流れの明確化



構造化された板書

子供たちに学習の見通しをもたせ、主体的に学習に臨ませるため、全学年で共通の指導過程を位置付けて実践しています。また、子供たちの考えを記入したホワイトボードを黒板に貼り、対話を深められるようにしています。

指導過程を統一したり、子供が考えを記入したホワイトボードを活用したりして、「板書の構造化」を行いました。その結果、子供が明確な見通しをもって主体的に学習に取り組んだり、対話を通して考えを深めたりする姿が見られました。また「算数コーナー」の設置で主体的にノートのとり方を工夫する子供たちが多く見られました。

算数コーナーの設置



学習の足あと (算数コーナー)

各学年の子供たちの算数ノートで創意工夫が見られたものについて掲示しています。絵や図、グラフなどを使って解決方法や説明を簡潔に記録するなど、「子供が主体的に工夫して記入する算数ノート」をめざしています。

〈教育事務所から〉

田代小学校は、「学習指導案検討→模擬授業→研究授業」のサイクルを確立し、思考力・表現力を高める指導に取り組んでいます。ガイド学習や思考の練り上げなど工夫し、成果を挙げています。

業務改善対策について

文部科学省において、平成28年度に教員勤務実態調査を行い、教員の勤務実態の実証分析を実施したところ、前回調査（平成18年度）と比較して、小中学校とも教員の勤務時間が増加しているとの結果が示されました。これらの実態を改善するために、鹿児島県教育委員会では、「学校における業務改善方針」を策定し、以下のことにすぐに取り組みます。

「リフレッシュウィーク」を設定します。→毎年8月11日～8月17日を学校行事等を実施しない「リフレッシュウィーク」として設定

週2日、部活動の休養日を設定します。→平日週1日及び土日のうち1日、合わせて原則週2日の設定
(注1) (注1)：平成30年度中に県としての「運動部活動等の在り方に関する方針」を作成する予定

学校・保護者・地域が一体となって、学校における業務改善に取り組みます。
→「学校関係者評価委員会」や「学校運営協議会」等を活用し、各学校の実情に応じた業務改善に取り組む

各学校でも以下のような実践に取り組んでいます。皆さんの学校でも積極的に業務改善に取り組んで、「業務の簡素化」、「業務の効率化」、「業務改善の意識化」を進めてください。

会議資料の事前配布、資料の簡素化などによる準備の軽減や時間の短縮を図った。

校務分掌の見直しを行い、複数体制の整備による事務の分担化をするなど業務の適正化を図った。

学校行事に係る過年度のデータ等の保存の在り方のルールを徹底するなど、共有体制の構築を図った。

校内における各種様式を共通フォーマットとして活用することで効率化を図った。

教員勤務実態調査（H28とH18の比較）

- 教諭の1週間当たりの平均勤務時間が、小学校で4時間9分、中学校で5時間12分の増。
- 教諭の1週間当たりの平均勤務時間は、小学校で57時間25分、中学校で63時間18分。これを、1か月の時間外勤務に換算すると、小学校で約70時間、中学校で約93時間に相当。
- 中学校の土日の「部活動」に従事する時間については、10年前よりもほぼ倍増（1時間6分から2時間10分）。

体力の向上をめざして

1 本地区の体力の現状

		北薩	県平均	全国
小	男	53.02	53.13	54.16
	女	54.54	54.57	55.72
中	男	40.89	41.24	41.96
	女	49.08	49.16	49.80

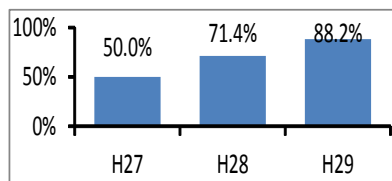
【体力合計点平均値】

上の表は平成29年度全国体力・運動能力調査の結果です。残念ながら、本地区はいずれの学年・男女においても全国平均及び県平均に届いていない状況です。各学校において児童生徒の実態を把握し、課題に対する具体的な取組が求められています。そこで以下に取組例を紹介します

【取組例】

- ・ 全学級、毎体育授業の始まりには多様なおにごっこ遊びを実施し、瞬発力や持久力の向上を目指す。（学校全体での共通理解・共通実施）
- ・ 「学校にいる間に、鉄棒で前回り5回しよう！」と呼びかけたり、「みんなで遊ぶ日」を設定したりするなどして外遊びにつなげる。（外遊びの奨励）

2 体力アップ! 「チャレンジかごしま」の奨励



H29 学校賞受賞校

阿久根市立折多小学校
長島町立平尾中学校
長島町立鷹巣中学校

上のグラフは、本地区中学校の体力アップ! 「チャレンジかごしま」への申告率の変化です。昨年度、本地区小学校の70校中68校、中学校の34校中30校が挑戦し、記録が申告をされています。参考となる取組として、「体育の導入で毎回取り組んでいる」「運動会・体育大会の種目に取り入れている」、「職員室前に記録を掲示して意欲を喚起している」等があります。今後も体力の向上に向けて、「体力アップ! 『チャレンジかごしま』」への取組を奨励します。ぜひ、今年度も本事業を有効に活用し体力の向上に努められることを願っています。



PTA指導者等140人が集う!

(北薩地区PTA指導者養成事業)

北薩地区の各单位PTAの役員等を対象に、指導者としての資質の向上とPTA活動の充実をめざし、6月16日(土)さつま町にて、研修会を実施しました。

PTAの目的や活動についての理解や、流水小PTA(さつま町)で組織している親子読書グループの取組や実演など、PTA活動の推進に必要な知識や技術を学ぶ機会となりました。

また、「考えてみませんか?人権のこと」と題しての講話があり、「子供は親(大人)の言動を注意深く聞いたり見たりしている」と指摘。参加されたPTA会員は、『人権課題を正しく知る』『人権感覚を高める』など、改めて自分の行動や言動を振り返るよい機会となりました。

良質な教育環境づくりへのアドバイス①

鹿児島学習定着度調査等の調査結果を経年変化から分析を行い、全職員による共通理解を図り、授業改善のための具体策を示している学校があります。そのような学校の授業では、ホワイトボードの効果的な活用や「めあて」と「まとめ」の整合性をもたせた板書がなされています。

編集後記

合同計画訪問で授業を参観させていただいています。「北薩の授業づくり3ポイント」による「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業が展開されていました。日々の授業の質を高め、実践を積み重ねていきましょう。